

全国

ぜんこく  
しぎかいじゅんぼう

平成22年 2月 5日  
(2010年) 毎月3回5の日に発行

第1750号  
定価 1部20円

発行 全国市議会議長会

〒102-0093  
東京都千代田区平河町2-4-2  
代表 TEL 03(3262)5234  
旬報 TEL 03(3262)2309  
発行人 大竹 邦実

http://www.si-gichokai.gr.jp

# 市議会旬報

## 第174回国会

# 鳩山総理が 施政方針演説



施政方針演説を行う鳩山総理  
(写真提供=内閣広報室)

## 危機を好機に 「フロンティア」を切り拓く

1月18日に幕を開けた通常国会。現政権は地域主権の確立を「鳩山内閣の1丁目1番地」と位置付けるだけに、今通常国会の動向に自治体関係者の注目が集まる。国会開幕の翌週29日には、鳩山総理が施政方針演説を行い、平成22年の抱負を述べた。

鳩山総理の演説は7本の柱で構成。うち地域主権の確立については「危機を好機に」「フロンティアを切り拓く」とする柱の1つとして掲げ、▽地方分権改革推進計画に基づく地方への不必要な義務付け・枠付けの廃止▽道路・河川等の維持管理費に係る直轄事業負担金の廃止▽国と地方の関係を対等とする「国と地方との協議の場」の法制化――に向け、内閣の総力を傾注する決意を示した。

このほか地域主権を支える財源については、ひも付き補助金の一括交付金化、出先機

域主権戦略会議は、3つの観点から改革を目指している。規制面からは義務付け等、予算面からは一括交付金等、法制面からは出先機関改革等の改革を模索している。

法制面では、このほか地方政府基本法制定を目指している。現行の地方自治法を抜本的に見直し、新たな法制度を築く取り組みだ。審議の担い手は、1月1日に発足した「地方行政検討会議」。1月20日に初会合を開き、今後の検討項目を審議した。

## 自治法抜本改正へ 地方行政検討会議が始動

地方行政検討会議が始動

目には▽基礎自治体の区分の見直し▽大都市制度のあり方▽議会のあり方――など。現行

開の抜本改革などを内容とする「地域主権戦略大綱」を策定し、政府として対処していく姿勢を改めて強調した。

同大綱の策定に向けては、既に21年11月17日、鳩山総理を議長とする地域主権戦略会議を立ち上げ、取り組んでいる。12月14日には初会合が開かれ、同大綱を今年の夏までに策定することなどを定めた行程が示されている。

2月5日現在の市数

807市
うち
指定都市 18市
中核市 41市
特例市 41市
一般市 684市
特別区 23区

山口市 編入合併

山口市が1月16日に、豊川市と八女市が2月1日に、それぞれ編入合併を行った。

各市の概要【山口市】1町を編入、人口19万5985人、面積1023.31平方キ、議員定数47人(在任特例)【豊川市】1町を編入、人口18万26人、面積160.63平方キ、議員定数40人(定数特例)【八女市】2町2村を編入、人口7万1127人、面積482.53平方キ、議員定数31人(定数特例)

制度を根底から覆す項目も含まれるだけに、審議の行方に注目が集まるところ。検討会議では11月までに論点をまとめ、明年3月の通常国会へ自治法改正案を提出する予定。

【構成員名簿】▽原口一博・総務大臣(議長)▽渡辺周・総務副大臣▽小川淳也・総務大臣政務官▽逢坂誠二・内閣総理大臣補佐官▽達増拓也・岩手県知事▽奥山恵美子・仙台市長▽松田直久・津市長▽横尾俊彦・多久市長▽寺島光一郎・北海道乙部町長▽金子万寿夫・鹿児島県議会議長▽五本幸正・富山市議会議長▽野村弘・長野県上松町議会議長▽石原俊彦・関西学院大学教授▽岩崎美紀子・筑波大学教授▽確井光明・明治大学教授▽斎藤誠・東京大学教授▽西尾勝・東京大学名誉教授▽林宜嗣・関西学院大学教授

**【特集】**  
**アイデアで**  
**地域活性化**

今年1月から始まったNHK大河ドラマ「龍馬伝」。放映に合わせ、主人公である坂本龍馬ゆかりの地、高知と長崎がそれぞれ、時には連携しながら、地域の魅力を全国へ発信しようとしています。

高知は、いわずと知れた龍馬の生誕地。長崎は、龍馬の興した貿易結社「亀山社中」が結成された場所。両者とも龍馬という人的資産を、最大限に活かそうとして取り組んでいます。本紙では両者の取り組みの中でも、特徴的な面について紹介していきます。



長崎歴史文化博物館所蔵

# 長崎さるく英雄編

長崎龍馬の道をゆく



長崎さるくは修学旅行にも最適(写真提供：長崎市)

## 長崎市での取り組み

ご当地出身アーティスト・福山雅治氏主演の「龍馬伝」がスタートする平成22年。長崎市では今年を龍馬イヤーと位置付け、「長崎さるく」も英雄編として開催するようになりました。

龍馬をはじめ、長崎で功績を残した人物にスポットを当て、新たなコースマップも各種多彩に取り揃えました。マップを頼りに長崎のまちを歩けば、従来の長崎観光とは面持ちの異なった歴史散策が楽しめるよう、工夫が凝らされ

**解説** 【長崎さるく】坂本龍馬、勝海舟、福沢諭吉など、多くの偉人も学んだ長崎の地。長崎のまちの魅力を堪能するには、まちを歩くことが一番の方法だと考えた長崎市では、平成18年4月1日から212日間にわたり「日本ではじめてのまち歩き博覧会長崎さるく博'06」を開催。長崎のまちの知られざる魅力を紹介した取り組みは、市民から好評を呼び、終了後には継続要望の声が多く寄せられた。観光客と長崎市民が触れ合う、今までにない新しいスタイルが市民の支持を得たためだ。手応えを掴んだ長崎市は、市民の要望に応え、19年4月1日から「長崎さるく」として再びスタートを切った。

「さるく」とは、まちをぶらぶら歩くという意味の長崎弁。「長崎さるく」では、特製マップ片手に自由に歩く「遊さるく」、さるくガイドの説明を聞きながら歩く「通さるく」、専門家による講座や体験などを通じ更に深く探求する「学さるく」などを長崎市では用意した。

和華蘭(わからん)まち長崎の歴史、隠れた魅力などを堪能するには、またとない手段といえよう。

ています。▽長崎歴史文化博物館▽亀山社中記念館(亀山社中跡地)▽勝海舟らを輩出した海軍伝習所跡——などの史跡がマップ上に散りばめられており、現地へ足を運べば幕末当時の時代に思いを馳せることができます。

実は長崎歴史文化博物館も立派な史跡です。この博物館が建つ敷地は、かつて長崎奉行所館山役所があった場所なのです。建設時には、奉行所の石段や庭園など遺構が出土しました。現在、石段は補強され、博物館内に復元された奉行所の門側のエントランスとして活用されています。

長崎奉行所ゾーンは、今年1月9日から来年1月10日にかけて、「長崎奉行所・龍馬伝館」となり、大河ドラマ「龍馬伝」の放送に合わせて坂本龍馬の人物像やドラマの裏側

を紹介していきます。

また、博物館では約200年間にわたる長崎奉行の判決記録「犯科帳」を展示しており、法制史上の貴重な資料を見学することが可能。坂本龍馬を撮影した上野彦馬の写真も収蔵されており、一度は見ておくべき展示品に溢れています。

この博物館は、長崎県と長崎市が予算と収蔵品を出し合い、設立された施設。指定管理者制度を用い、長崎県と長崎市が運営と管理を民間企業へ委託していることも、自治体関係者にとって、別の視点から興味を惹かれるポイントかもしれません。

このほか市では、幕末期から現在に至る長崎の歴史・文化などを体感できる「長崎まちなか龍馬館」をオープンさせました。多彩な展示ブースやショッピングフロアなどを兼ね備えた観光施設としてだけでなく、通さるくのガイドステーションとしても機能します。設置期間は来年2月28日まで。しかし長崎市では、龍馬観光を一過性では終わらせず、新たな観光メニューとして育てていくでしょう。

# 土佐・龍馬 ごあい博

## 高知県下の取り組み

坂本龍馬を生み、龍馬ゆかりの人物である岩崎弥太郎、ジョン万次郎、中岡慎太郎らをも輩出した地が高知。龍馬イヤーともいえる今年、高知では県下を4つのエリアに分け、大河ドラマ・龍馬伝の舞台を巡る「土佐・龍馬であい博」を開催しています。

各エリアには、龍馬が長崎で設立した亀山社中になぞらえ、パビリオンとして4つの社中を設置。安芸・室戸周辺エリアには「安芸・岩崎弥太郎こころざし社中」、梶原・須崎周辺エリアには「ゆすはら・維新の道社中」、土佐清水・四万十周辺エリアには「土佐清水・ジョン万次郎くろしお社中」が、それぞれオープンしています。

また、土佐・龍馬であい博のメイン会場となる高知中央エリアには「高知・龍馬ろまん社中」がオープンし、土佐

から江戸、神戸から京都、そして長崎で、龍馬を襲った象徴的な出来事を体感できる施設となっています。

各社中からは、高知県下の必見スポットを周遊するモデルコースも設けられ、コースを辿ることで歴史の息吹に触れられるほか、高知に残る大自然をも体感することができます。

高知・龍馬ろまん社中から出発するモデルコースは、はりまや橋から高知城、龍馬誕生地、高知市立龍馬の生れた町記念館、高知県立坂本龍馬記念館、龍馬像を経て、最後に太平洋を臨む桂浜へと至るルート。県立記念館は、龍馬が姉の乙女へ宛てた手紙など真物4通を所有しており、まさに「龍馬の殿堂」ともい

【特集】  
アイデアで  
地域活性化

える存在です。姉へ宛てた手紙では、脱藩罪を許され、海援隊長に就任

したことを喜ぶとともに、少し自慢している内容が記されており、龍馬の愛嬌ある一面を窺い知ることができます。

## 高知市独自の取り組み

土佐・龍馬であい博で、高知・龍馬ろまん社中発のコースとして登場する「高知市立龍馬の生まれたまち記念館」。龍馬誕生の地、高知市上町に立地する施設です。記念館では、龍馬が生まれ

土佐・龍馬であい博の開催期間は、平成23年1月10日まで。一見の価値あります。

育った上町の歴史や文化、龍馬を育てた家族らについて、模型や映像などを駆使し紹介しています。また、龍馬が生まれてから脱藩するまでの、様々な場面を体験できるコーナーも設けられています。



桂浜から太平洋のあなたを見据える龍馬像(写真提供：高知市)



なかでも施設の特徴は、この記念館が約150人の観光ボランティアガイドの拠点であり、「土佐っ歩」の拠点となっていること。土佐っ歩とは、龍馬の生まれたまち歩きのこと。現在は▽龍馬誕生コース▽大政奉還コース▽龍馬と仲間達コース―など6コースが用意されています。記念館周辺に多く存在する幕末・明治時代の史跡について、ガイドが観光客らへ低額な料金で案内しています。

ガイドを務める皆さんは、素人ながら研修の成果もあるため、歴史や史実の知識が豊富。それでいて地元の穴場や普段着の会話など、プロにはない持ち味が魅力です。

また、この記念館は建築作品としても評価が高く、(社)公共建築協会が国土交通省や全国知事会、全国市長会、全国町村会の後援で実施している「公共建築賞」において、平成20年に第11回公共建築賞優秀賞に輝いています。

まっことよう来たねえ――記念館を訪れると龍馬の声が聞こえてきます。時代の英雄は今もなお、地元への協力を惜しむことがありません。

